

会議等結果報告書

会議区分	会議 ・ 打合せ ・ 協議	文書番号	277
		決裁期日	平成22年1月26日
名称	上富良野町協働のまちづくり推進準備委員会（第13回）		
日時	平成22年1月25日（月） 午後6時30分～午後9時00分		
場所	保健福祉総合センター1階会議室		
出席者	委員12人 町民生活課長、事務局2人 合計15名		

内容

[進行：町民生活課長]

あいさつ

丸田会長： 昨年の6月25日の第1回会議から皆さんのお世話になり、今回で13回目となる。いろいろと皆さんに検討いただいたことを本にまとめ、今日皆さんにお計りする。3月末までに策定し、報告をさせていただきたい。3月まで2カ月で仕上げなくてはならず、大変ご苦労をおかけするがよろしくお願い申し上げる。

議題

1 協働のまちづくり基本指針（素案）について

町民生活課長から今後のスケジュール・進め方について説明。

- ・ 今後は2月に2回、3月に2回の会議を予定し、たたき台の検討を行う。
- ・ 本日配布したたたき台はベタ打ちしたもの。カットやフローチャート図などは入っていない。今後整理していく。
- ・ 団体の代表として入られている委員については、機会を見て団体に説明いただき意見の聞き取りをお願いしたい。
- ・ 今後、たたき台から素案にしていただき、平成22年度に新たな組織を作り素案から成案にしていく予定。
- ・ 冊子の体裁は事務局で対応していく。

事務局から基本指針（たたき台）の内容を説明。

- ・ 「目次」「はじめに」について

持安委員： 表現の中でごみを分別できない方もいるので、そのような方が参加することに否定的にならないよう、そのような人のこともみんなで考えることを表現できないか。

佐川委員： テーマを決めてはどうか。例として「きずな」など。それをもとに協働を進めるイメージを持ってはどうか。他の事例にもテーマを持ったところがなく、あったら良いと思う。文字数が多く、親しみやすいかどうか。一般の人には読み切れないのではないか。一つの言葉でわかりやすいテーマを持ってはどうか。流れとして「きずな」をつくり、まちづくりを進め、住んでいて良かったにつながるように。住んでいて良かったは住んでわかることである。この

会として、次の委員会がやりやすいよう、そのような言葉を持ってはどうか。

丸田会長： サブタイトルの前に何か言葉を入れることも案である。

岩田委員： この指針の町民への示し方はどのように考えているのか。

町民生活課長： 今回は素案として、次の委員会で成案にしていく予定。

丸田会長： 文字が多く内容に踏み込めないと思う。もっと簡単にしてもよいのではないかな。発行時期はいつ頃か。

町民生活課長： 平成22年度の前半で仕上げたいと考えている。委員は15人程度を予定している。今回の素案において完成度を高めていきたい。

菊地委員： 文字が多く目が向かない。カットなどを入れ、目を引くような体裁にしてはどうか。

町民生活課長： 今回は文章表現についてチェックをお願いしたい。この指針は自治基本条例を具現化していくガイドラインの位置付け。自治基本条例に用い町民に馴染んでいる表現をサブタイトルにした。いろいろな表現は混乱を招くと考えた。

丸田会長： 文字が多く内容を理解するのは難しいと感じる。

佐川委員： 自治基本条例と同じに感じてしまう。表現が長いと思う。

岩田委員： わかりやすいものにしていくことが大切。

久我委員： サブタイトルの言葉はよく使われているものなので良いと思う。今日配布されたばかりなので、持ち帰って読み込み、次回に話し合いをしてはどうか。

・当日配布した資料のため、5ページ以降は事務局から朗読し、意見交換を行った。

丸田会長： 17ページからワークショップの意見をまとめている。字が多すぎると感じるし、役所の言葉ではなく普段使っている言葉を使うことがよいと思う。

持安委員： 同じ言葉が出てきている。目次を見て体系がわかるようにしてはどうか。

三島委員： 指針の策定する目的を追加してはどうか。専門用語が多いと思う。

佐川委員： テーマ、目的が必要と思う。

町民生活課長： 指針を策定する目的は4ページ下段に書いている。

三島委員： この委員会の成果を示すことが必要。

岩田委員： 協働の具体的なものをもっと示してはどうか。これまでも協働と言いながら行動ができていないと感じる。

瀬川委員： 11の方策の項目をもっとアピールしてはどうか。委員会としての成果をこの項目にアピールしてはどうか。この項目は次につなげていくようにしてほしい。

丸田会長： 16ページ以前は町民にはどうかと思う。

持安委員： 14ページ以降は身近なことで頭に入ってくるが、それ以前は原則論と感じた。

三島委員： 一枚の図に示すとわかりやすいのではないかな。

岩田委員： 16ページまでは自治基本条例と同じに感じる。17ページの具体の項目を充実させていくことがこの委員会の役割と思う。

町民生活課長： この指針は、前段は協働について解説し、その後には上富良野の現状と解決策を示す流れとした。ワークショップで議論された内容をこの指針の中に刷り込んでいくことが大切と思う。

岩田委員： 町民には協働はおぼろげに見えていると思う。今後はどう参画を進めていくか、どうしていくかが重要。

北越委員： ワークショップの内容をもっと盛り込んでどうか。会として議論してきたことなどを盛り込み、達成感を感じられるものにしたら良いと思う。この1年間の経過や取り組んでき

たこと、指針を作る目的を具体的に示した方がよい。たたき台といいながら完成形に近く、行政主導の感じを受ける。わかりやすい表現にしたらい。

本田委員： 町民が関心を持てる言葉使いとする。一般の町民も関心を持てるようにしたら良い。

三島委員： 参画してみたいと思える表現が大切。

岩田委員： この会で取り組んだワークショップは参加しやすいと思う。

本田委員： 地域で色々やってみたいが、良い発想が芽生えてこない。

岩田委員： 日ごろの会合は世帯主・男性が中心であり、女性や子どもの参加する場としてワークショップは有効と思う。

佐川委員： 11ページ以降の役割の表現は上から目線に感じる。役割の言葉は企業に対する命令に感じるのので別の表現にできないか。例えば期待されますなど。

岩田委員： 責任や役割の表現に抵抗はあると思う。もっとフランクな感じが良いと思う。

三島委員： 高齢者は字に弱いので配慮が必要である。

佐川委員： これを読んで希望や気力につながるかどうかと思う。

岩田委員： 委員などのテキストとしては良いが、町民には重いと思う。

石田委員： もっとくどくても良いと思う。気がついたことなどをもっと書いても良いと思う。

指針をまとめるための素案なので、協議してきたことや話し合いの内容を盛り込んででも良いと思う。今回のものは町民に示す場合のイメージではないと思う。次回の委員会が町民に示すものを作るので、今回はそのたたき台でよいと思う。

佐川委員： 次回のためにも、わかりやすい表現を用いるなどの意見を入れていくことが必要。

町民生活課長： 皆さんの合意した内容を修正していきたいと思う。町民の責任に関する表現から逃げては次につながらないと思う。役割の表現は命令ではないと思う。この間の話し合いで、これからの社会の課題を共有してきたところであり、それぞれの役割を感じることで次につながると思う。

久我委員： ワークショップの内容を詳しく表現できないか。

岩田委員： 方策の項目はもっと具体的でも良いと思う。

佐川委員： 内容がダメということではないが、読み手として上から言われているように感じられる。役割の表現は「関わり」などの表現がよいと思う。自主的な行動が協働であり、上から言われるようなことではないと思う。「期待する」の表現が良いと思う。

町民生活課長： 「大切です」の表現は命令に感じられるかどうか。自治基本条例は「努めます」の表現を用いている。他の自治体の指針には「必要です」の表現が多い。

佐川委員： 役割の表現はきつく感じる。

本田委員： 役割の表現でよいのではないかと。自らに置き換えた場合はよいと感じる。

三島委員： 自治基本条例にも書かれているので良いと思う。

丸田会長： 次回に意見を持ち寄るようにしたい。

岩田委員： この指針の作りとして、冊子のイメージがテキストか。

町民生活課長： ある程度の完成形を作っていきたいと思う。意見の確認として、同じ言葉が繰り返しありくどい、策定の目的を追加する、11の項目の内容を充実する、表現をわかりやすくする、図を取り込んでいくことを修正点としていきたい。2回程度読み返すことで内容の理解も進み、内容に対する気づきも出てくると思うのでよろしく願います。

丸田会長： この会で作り上げ、次の組織に渡していきたいので、次回までに意見の整理をお願いしたい。

自治推進班主幹から2月1日の講演会について説明し、委員の参加をお願いした。

2 その他

次期会議の日程を次のとおりとした。

- ・2月9日火曜日、午後6時30分から、保健福祉総合センターかみんで開催する。
- ・次回以降は、2月24日水曜日に予定する。

閉 会

[会議終了：21時00分]